

2021年3月4日

要介護手前になる前に“たんぱく質習慣”をチェック 「フレイル健診」開始からまもなく1年 利用者の声を公開 より求められる高齢者の栄養問題と健康寿命延伸

名古屋大学発ベンチャーの株式会社ヘルスケアシステムズ(本社：愛知県名古屋市、代表取締役：瀧本 陽介)は、コロナ禍の運動や栄養不足から『フレイル』予防の気運が高まった2020年秋に『たんぱく質』不足を測るセルフケア郵送検査「フレミーチェック」を発売しました。この度、実際に利用したユーザーから、離れて暮らす親の『たんぱく質』摂取量と不足量がわかり習慣改善につながったという声が届いておりますので公開いたします。当社は、『フレイル』と関連性が高い『たんぱく質』摂取量を少量の尿で測定する、簡便な郵送検査キットで高齢者の栄養問題の解決と健康寿命延伸に貢献します。

■独居高齢者の習慣改善につながると利用者の声

当社の郵送検査キット「フレミーチェック」では、キットの中の容器で採尿し、郵送で送ることで自分自身の『たんぱく質』摂取量と、目標量に対しての不足分がわかります。実際に利用した40代の会社員の女性は、自身でキットを利用した後、遠方に離れて暮らす70代の母親にも検査キットを贈ったそうです。自他ともに認める活動家で十分に足りている自信があったそうですが、実際に測ってみるとまったく足りていないという結果が。母は1人で食事することも多いことから、女性は電話で朝食メニューを話す機会を設けて、次回の検査に向けて習慣改善を進めているそうです。

■『たんぱく質』不足による『フレイル』リスク

現代の日本人の『たんぱく質』摂取量は低下しており、特に、『たんぱく質』不足による低栄養の高齢者が増えています。『たんぱく質』不足は『フレイル(虚弱)』という要介護一步手前の状態に強い影響を与えます。これは、65歳以上の日本人女性を対象にした研究でも、『たんぱく質』摂取量と『フレイル』率の関連性が明らかになっています。

厚生労働省は高齢者の「介護・フレイル予防」を重点項目のひとつに挙げており、2020年4月から後期高齢者(75歳以上)医療制度の健診で『フレイル』状態をチェックする「フレイル健診」を開始しました。また、同年5月には「日本人の食事摂取基準(2020版)」で、50歳以上の“たんぱく質の目標量”の下限を引き上げており、『フレイル』予防におけるたんぱく質の重要度が高まっています。

■知られていない『フレイル』と『たんぱく質』の重要性

一方で、『フレイル』予防に『たんぱく質』の摂取が重要と知っている人はたったの3割(29.5%)ということが、当社会員を対象にしたアンケート(20代~70代、n=3,677名)からわかってきました。当事者である65歳以上の方はもちろん、親世代が「フレイル健診」対象にあたる40代~50代にとっても重要な情報になっていくことは間違いありません。

【次ページ】  フレイルの認知度とたんぱく質との関連性に関わる認知度

